


# ④アトピー性皮膚炎の治療は どんなことをするの？

---



先生、これから  
こぐまのアトピー性皮膚炎は  
どんな治療をしていくんでしょう？  
塗り薬以外の治療もあるんでしょうか？

にがい飲み薬は  
苦手だな。

では次は実際の治療のお話  
をしていきましょう。

# アトピー性皮膚炎の治療はチーム戦です



これまで見てきたように、アトピー性皮膚炎の発症・症状の悪化にはいろいろな要因が関わっています。

それぞれのトラブルに応じて対応していく必要があり、1種類の薬だけで治療を続けるには限界があります。

役割ごとの治療をバランスよく組み合わせるで行うので、**いわば「チーム戦」ともいえる**でしょう。

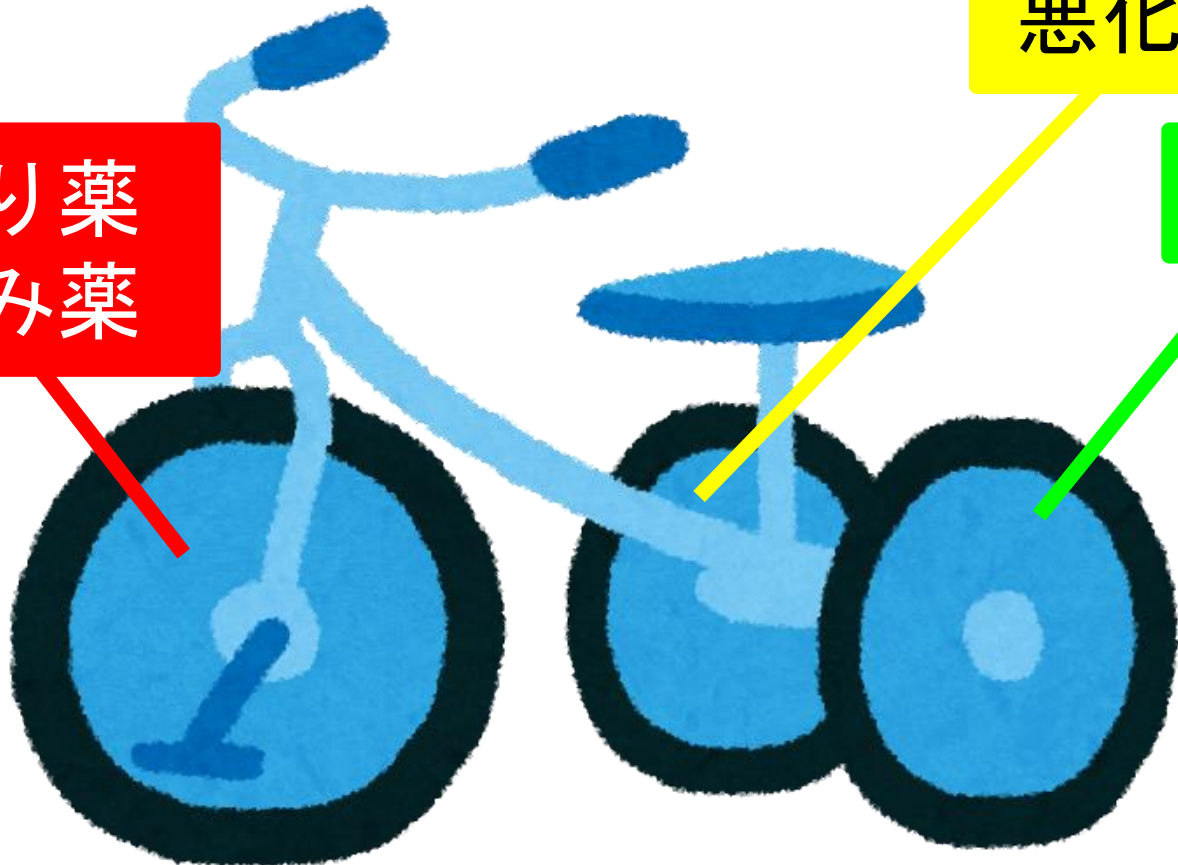
# アトピー性皮膚炎の治療のイメージ

悪化因子の対策

スキンケア

塗り薬  
飲み薬

どの車輪が欠けても  
うまく進みません。  
アトピー性皮膚炎の治療も  
これと同じです。





## 悪化因子の対策

ダニ、カビ、ペットの毛やフケ、汗、ほこり、黄色ブドウ球菌など



## 飲み薬

### ●抗アレルギー薬

(子ども用の粉薬やシロップ薬もあります)

⇒鳴りっぱなしのアラームを休ませる  
(痒み刺激を起こりにくくする)

※「しっしん」自体を抑える役割ではありません！

## スキンケア

### ●皮膚をきれいにする(洗浄)、保湿剤を塗る

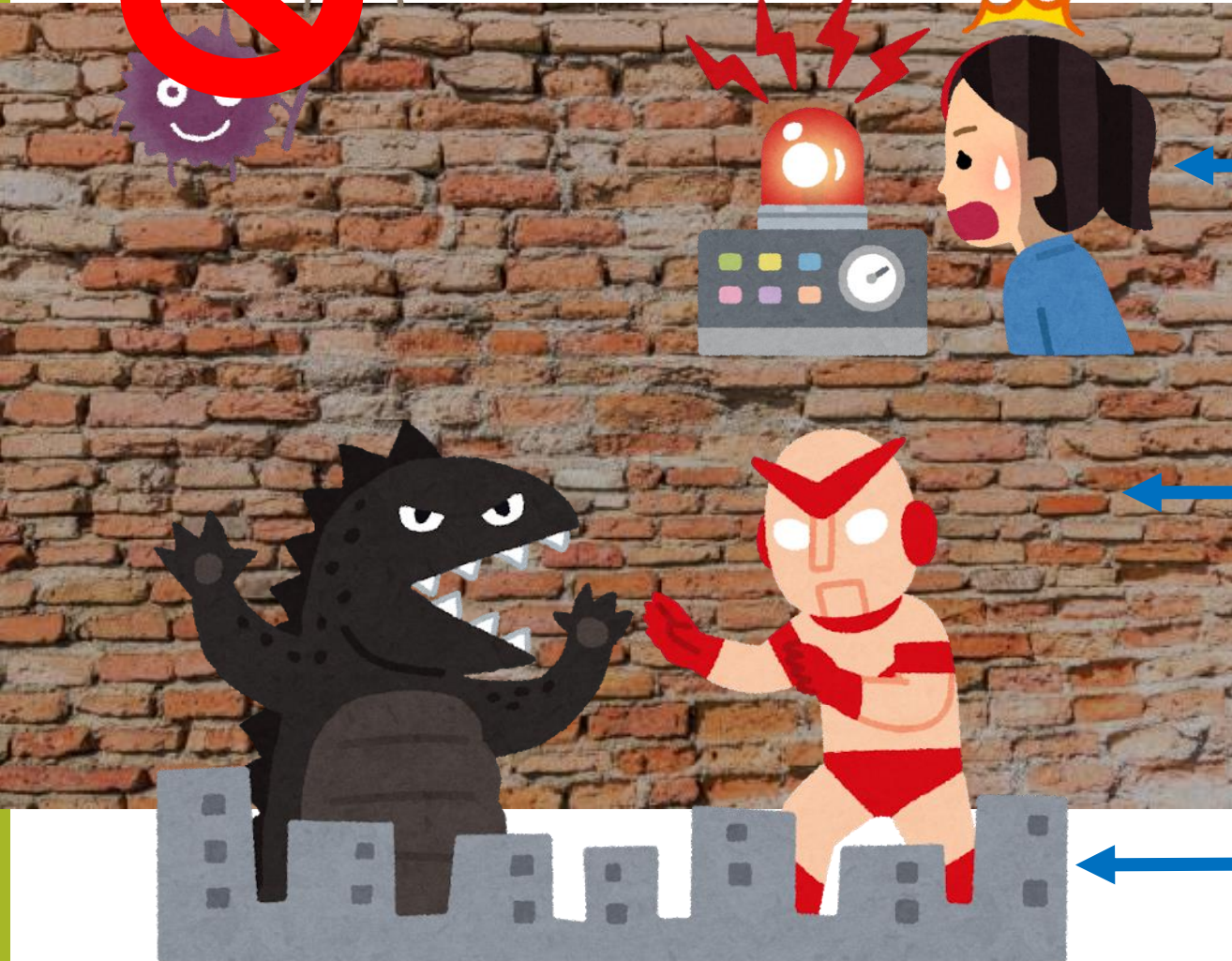
⇒痛んでいるレンガのメンテナンス  
(皮膚の構造を整える)


## 塗り薬

### ●抗炎症外用薬 (おもにステロイド外用薬)

⇒皮膚の炎症をおさえる  
(「しっしん」自体を落ち着かせる)

※症状の重い人には炎症を抑える飲み薬や、  
注射薬を使う場合もあります(おもに成人例)






なるほど。スキンケアと塗り薬は  
役割が違うんですね。  
保湿剤でしっしんも治るのかと思っていました。

同じようなイメージを持たれている方は  
案外多いんです。  
大事なポイントなのでぜひ覚えてくださいね。





ちなみに、  
保湿剤も役割が分かれているのを  
ご存じですか？

えっ！？  
そうなんですか！？

# 保湿剤、使い分けできていますか？

## エモリエント



## モイスチャライザー



ほかにも、セラミド配合剤など  
セメント(=角質細胞間脂質)の補強を担当するタイプ  
のものもあります！

## ●エモリエント

ワセリン、プロペト、椿油など  
=表面の仕上げのコーティング  
角質の表面にフタをして  
水分が逃げるのを防ぐ

## ●モイスチャライザー

ヘパリン類似物質  
(ヒルドイド、ビーソフテン)  
尿素、グリセリンなど  
=レンガ自体に水分を与えて修復  
角質細胞の水分量を直接増加させる



このように、保湿剤もどこを整えるかで2タイプに分かれています。

一般的に、**モイスチャライザー**が基本のスキンケアによく使われます。


冬など、保湿してもすぐに乾燥してしまうときや、先ほどのちびぐまさんのようにジュクジュクしたほっぺたの表面の保護をしっかりとりたいときなどは、**エモリエント**が有効です。



モイスチャライザーのなかでも、

- ・乾燥しやすい冬は軟膏またはクリームタイプ
- ・あせもがしやすい夏はローションまたは泡タイプ

というように季節に応じて衣替えするのがオススメです。



なるほど。  
それぞれの役割を把握して、  
バランスよく治療をすることが  
大切なんですね。

学校に色々な  
委員会や係が  
あるのと一緒だね！

そのとおりです。  
どんどんイメージが  
つかめてきましたね。